

アクティブ・ラーニングとは何か？

[文科省の用語集より]

教員による、一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が、能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

[Wikipedia, the free encyclopedia より]

米国のアクティブラーニングに関しては、多くの研究と実践がある。この学習方法は、1990年代に Association for the Study of Higher Education (ASHE)のレポート (Bonwell & Eison, 1991) に現れ、普及した。現在ではアクティブラーニングを校名にした学校がたくさんある。

<アクティブラーニングの特徴>

- ・学習者の学習責任に焦点を当てた授業モデルである。
- ・効果的な学習は、聞くよりももっと、なす (doing) ことによって達成される。
- ・学生は、読み・書き・議論し、さらに問題解決に盛んに取り組む。
- ・アクティブラーニングは、知識・スキル・態度が含まれ、この学習行動の分類が学習過程のゴールである(Bloom, 1956)
- ・学生は、高次の学習課題、分析統合と評価に取り組む。
- ・アクティブラーニングには、何かを為すことと為してしていることについて考えることの2つが含まれている(Bonwell and Eison, 1991)。

<アクティビティ>

アクティブラーニングを盛り上げるアクティビティには、以下のようなものがある。

1. クラス討論

- ・討論は通常、クラスサイズで行われる。しかし、小さなグループで構成すると、より効果的である。
- ・討論は、学習者に教科内容について批判的に考えること、および学習者および他者のポジションを評価するために論理を使うことを求める。
- ・学習者は、内容を構築的さらには知的に、討論することが求められるので、討論は、1つのユ

ニットが、十分にカバーされたときの追跡 (follow up) 活動として優れている(Brookfield 2005)。

討論を用いることの利点

- ①学生がさまざまな見取り図を探求することを助ける。
 - ②、知的な敏しょう性を伸ばす。
 - ③学生の声や経験を尊敬できる。
 - ④協同学習の習慣を発展させれる。
 - ⑤学生が統合と総合のスキルを発達させるのを助ける(Brookfield 2005)。
 - ⑥教師がアクティブに、学生とかかわることによって、一つの授業が事前に準備され、クラスルームで何が起きるかに気づく。
-

2. 思考ペア共有活動 (A think-pair-share activity)

- ・学習者が、これまでの学習について短時間考え、それから 1 人またはそれ以上の仲間と議論し、その後クラスの公式的な議論に移っていくときに用いられる。
 - ・この期間に、教師は学生の誤った概念を明確にすることができる。
 - ・学生が有意義な方法において議論を進めるためには、教科内容のバックグラウンドが必要になる。
 - ・思考ペア共有演習はそれゆえ、学習者が、すでに知っていることを同定し、それを他に関係づける場面において有益である。
 - ・学生が自分たちで議論することを期待するには、確かな教授を通して準備する必要がある。
 - ・この方法は、教師がすべての学生の意見を聞くために有効である。
 - ・この授業方法は、すべての学生が共同で学習を進める際に非常に効果的に機能する。
-

3. 学習セル (Learning cell)

- ・2 人または少数の学生が、研究したり学んだりする方法として効果的である。
 - ・学習セルは、Goldschmid(1971)によってつくられた。
 - ・学習セルは 2 人の学生が共通して読んだ内容について交互に質問し答える。
 - ・学生は宿題を読み、それについての疑問を書き留めておく。
 - ・次のクラスで教師は、学生のペアをランダムにつくる。
 - ・そして一方の学生がもう一人の学生に対して質問をする。
 - ・2 人の学生がまず議論し、その後他の学生が疑問を出す。役割を交代する。
 - ・この間、教師は、クラスのグループ間を回り、フィードバックを与え疑問に答える。
-

4. 短時間作文演習(A short written exercise)

短時間作文演習は、1 分間でおこなう。しかし、誰に提出するかによって正確な表現が求められるので、時間は固定しない方がいい。正確な表現を求める場合は、10 分をとる。

5. 協同的学習グループ(A collaborative learning group)

- ・協同学習グループは、異なった授業において異なった学習材料を学ぶ良い方法である。
- ・3-6名で一つのグループをつくる。
- ・グループリーダーと、書記を決める。
- ・可変性のある席配置が有効
- ・この本は、アクティブラーニングの、いい例である。というのは、学生は参加する前に、要求される仕事をレビューするからである(McKinney, Kathleen, 2010).

6. 学生ディベート(A student debate)

- ・学生ディベートもアクティブラーニングには有効である。
- ・この方法は、学生に、面白い話題についても活動に参加するチャンスを与えるだけでなく、言語的表現の経験を積ませることができる。

7. クラスゲーム(A class game)

- ・クラスゲーム(例:クロスワード・ゲーム)は、学生が大きな試験の前にコースの内容を復習することができるし、またその話題について楽しみながら、学習できる。

8. 教えることで学習する(Learning By Teaching)

- ・この方法はアクティブラーニングの一つの方法である。というのは学生は、ある話題について研究し、クラスで教えることができるための情報を準備できる。
- ・この方法は、学生が自分自身の話題を学ぶのを助け、時として教師よりも、仲間に対して上手に伝えることができる。

9. ビデオ映像を観た後で感想を述べる (reaction to a video)

<文献>

Bonwell, C.; Eison, J. (1991). Active Learning: Creating Excitement in the Classroom
AEHE-ERIC Higher Education Report No. 1. Washington, D.C.: Jossey-Bass. ISBN 1-878380-08-7.

Bloom, B. (1956). Taxonomy of Educational Objectives: The Classification of Educational Goals. New York: McKay.

Goldschmid, M. (1971)